

自立活動（人権）学習指導案

令和4年 月 日（ ）第 校時
〇〇小学校 特別支援学級 〇〇〇〇
指導者 〇〇 〇〇

1 主題 ところをあたためることば

2 児童の実態

本学級は、知的障がい学級で、1年生男児3名が在籍している。子ども達は、明るく活発で、のびのびと学校生活を送ることができている。学習活動では、得意なことを伸ばしつつ、苦手なことはスモールステップで進め、自分の個別課題に向かって最後まで真面目に取り組んでいる。それぞれの児童の特性や課題は様々であるが、学習面・生活面での児童の困り感に寄り添い、支援をしている。

児童名	実態
A児	
B児	
C児	

3 主題設定の理由

本学級の児童は、新しいことが好きで、何事にも意欲的に取り組むことができる。1学期に学習した「きもちのよいあいさつ」では、「ありがとう」の伝え方を考えた。その後は、給食の片づけを手伝ってもらった時や困っている時に助けてもらった時に、自ら進んで「ありがとう。」と、言えるようになってきている。また、掃除の時間にちりとりを持ってくれるなどのさりげないことでも、友達同士で「ありがとう。」と言い合うことができ、子ども達の間で「ありがとう」の言葉をよく聞くようになった。しかし、学校生活にも慣れて、友達との関係が親しくなるにつれて、「あっち行って」「〇〇くんはできんもんな」という言葉を耳にするようになった。遠慮なくきつい言葉を投げかけたり、「友達に〇〇って言われた。」と言って、相談に來たりすることも出てきている。本学級の児童は、普段自分が話した言葉を相手はどう思うか想像しにくいということが考えられる。

そこで、言われて嬉しい言葉ややる気が出るあたたかい言葉を「ふわふわことば」、言われたら悲しくなる言葉や乱暴な言葉を「ちくちくことば」という言葉でまとめ、それらを言われたときの気持ちを考えさせたい。そして、何気なく話したことが相手を傷つけたり不快にさせたりしていることや、言葉によってあたたかな気持ちになったり、やる気が出たりすることに気づき、前向きなあたたかい言葉を使おうという態度を育てたいと考える。

本学級の児童は、語彙が少なく自分の考えをうまく表現することがまだ難しいため、展開では一人一台端末を活用し、「ふわふわことば」と「ちくちくことば」について考える活動を取り入れる。学習後は、「ふわふわことば」を言うことができたり、言ってもらったりした時にシールを貼るなど、可視化することにより望ましい行動を増やしていく。

本時の学習は、特別支援学校学習指導要領第7章に示す自立活動の内容「3人間関係の形成」の「(2) 他者の意図や感情の理解に関すること」に基づいて設定した。また、「6コミュニケーション」の区分に示されている項目にも関連付けて指導していきたいと考える。

4 ねらい

言葉によって自分や相手が嬉しくなったり傷ついたりすることを知り、温かい言葉を使っていこうという態度を育てる。

5 指導計画（全8時間）

- 第一次 「ふわふわことば」と「ちくちくことば」について考えよう・・・1時間（本時1/1）
- 第二次 「ふわふわことば」を増やそう・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間
- 第三次 おもちゃづくりをしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・5時間

6 本時の学習

(1) 全体目標

- ・「ふわふわことば」を知り、場面に応じた「ふわふわことば」を考えることができる。

(2) 個別目標

児童名	本時の目標	関連する自立活動の内容
A児	・「ふわふわことば」のよさに気づき、場面に応じた「ふわふわことば」を言うことができる。	3-②, 6-②
B児	・「ふわふわことば」を使うことで、自分も相手もよい気持ちになることに気づくことができる。	3-②, 6-②
C児	・相手の状況をよくみて、場面に応じた「ふわふわことば」を考えることができる。	3-②, 6-⑤

(3) 普遍的な学習のテーマ 個人の尊重

(4) 展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 (評価方法)
<p>1 ふわふわするものとちくちくするものを実際にさわって、ふわふわとちくちくを体感する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ふわふわとちくちくのことばについてかんがえよう。</p> </div>	<p>○ふわふわしているものやちくちくしているものを用意し、実際にさわってみてどう感じたかを全体で共有し、本時のねらいへの方向づけを図る。</p>	
<p>2 本時のめあてをつかみ、タブレット端末上に提示されたことばを「ふわふわことば」と「ちくちくことば」に分け、全体で共有する。</p>	<p>○文字をすらすら書くことや言葉を考えることが苦手な子もいるため、タブレット端末 (MetaMoJi ClassRoom) を活用する。あらかじめ言葉の付箋を用意し、指でドラックして「ふわふわことば」と「ちくちくことば」に分類できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類した意図を尋ねることで、その言葉が相手にどんな気持ちになるか理解できるようにする。理由を言いにくい児童には、自分が言われたときにどんな気持ちになるか問うようにする。 ・導入と関連付けて、まとめるようにする。「ふわふわことば」にはふわふわしたマークを用い、「ちくちくことば」にはとげとげしたマークを用いて視覚的に分かりやすいようにする。 	<p>・「ふわふわことば」のよさに気づいている。(A児・B児、観察)</p>
<p>3 様々な場面で、どんな「ふわふわことば」を掛けるとよいか考えて発表をする。</p> <p>4 本時のまとめをし、振り返りをする。</p>	<p>○具体的で身近な生活場面の例を挙げ、どんな「ふわふわことば」を掛けるとよいかを考えやすいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えやすいように、具体的な生活場面の絵を提示する。 <p>○「ふわふわことば」を使うことができたならシールを貼って増やしていこうねと約束をし、日常生活の中でも「ふわふわことば」を使おうという意欲を高めるようにする。</p>	<p>・場面に応じて、「ふわふわことば」を考えて、発表している。(全員、観察・発表)</p>

(5) 評価

A児	・「ふわふわことば」のよさに気づき、場面に応じた「ふわふわことば」を自分で考えて言うことができたか。 【技能的側面】
B児	・「ふわふわことば」を使うことでどんな気持ちになるかを考え、自分も相手もよい気持ちになることに気づくことができたか。 【価値的・態度的側面】
C児	・相手の状況をよくみて、場面に応じた「ふわふわことば」を考え、適切な言葉で言うことができたか。 【技能的側面】